

画論 The Best Image 2015 に参加して

社会福祉法人 函館厚生院 函館中央病院 駒野圭史

まずはこの場をお借りして、このような機会を与えていただきました遠友 ser 会の世話人の皆様、東芝メディカルシステムズ株式会社の皆様に感謝申し上げます。

今回、Fontan 術後側副血行路コイル塞栓術の術前シミュレーションを可能とする画像で優秀賞をいただくことが出来ました。Fontan 術後のチアノーゼ増悪の原因の一つとして体静脈側副血行路の発達がありますが、側副血管の流入出部位の同定や、側副血管の数を事前に確認できることで、検査時間の短縮とそれに伴う患者・術者の被曝低減が可能になると考えました。

この画像を作成する上でのポイントは、撮影方法や造影方法もさることながら、Trans Axial 像からすべての側副血管を発見することです。モダリティを問わず共通していえる事ですが、正常解剖を理解することで異常所見に気づくことが可能になるので、解剖の理解は診療放射線技師にとって重要な事です。

作成する画像は肺動脈、肺静脈、上下大静脈、側副血管をパーツごとに作成し、オパシティを調整し加算することで側副血管の数や流入出部位の確認ができ、骨情報も加算することでコイル塞栓術時のランドマークにもなります。

臨床医からも見やすい画像であると高評価をいただいております、今後も続けていきたいと考えます。

しかし、画像はさておき、撮影方法・造影方法に改良の余地があると考えます。

画論の肝となる部分であることは認識しておりますし、同行頂いた放射線科医とも撮影技術・造影技術に磨きをかけなければ最優秀賞の獲得はないとの認識もあります。

昨年度に引き続き 2 年連続の優秀賞をいただけたことも励みに「是非とも次回は！！」と闘志がわいてきました。

また、審査いただいた先生方におかれましては、日常業務多忙なところ審査いただき、選出いただきましたこと、誠に感謝申し上げます、この場をお借りして深く御礼申し上げます。これからも一層精進していきたいと思っておりますので、今後ともよろしく御願い致します。